

IT21の会(平成17年11月)第93回例会議事録

日 時:平成17年11月5日(土) 17時00分～18時40分

場 所:日本技術士会 荻手第二ビル 5階A・B会議室

出席者:20名

配付資料

- ・0511-1 社会人向け大学院について(上田健之氏)
- ・0511-2 2005年度IT21合宿例会企画について(合宿WG)
- ・0511-3 先端複合技術研究会研究発表募集要項および申込書(修習技術者支援実行委員会)

議 事

1. 「社会人向け大学院について」 上田健之氏

信州大学IT大学院について、入試から入学、学習内容、CAIによる授業内容、勉強方法、修士論文公聴会、さらに博士課程入学に至るまで、実体験に基づいて詳説された。

社会人向け大学院は、文科省の大学設置基準の変更により、日本でも環境が整ってきた。信州大学IT大学院は、日本で唯一のインターネット制の大学で、学部、修士課程、博士課程がある。通学制とインターネット制の区別はなく、学生証、卒業証書、学位記、授業料も同じである。入学金、授業料は国立大学と同額で、教育訓練給付金制度の対象になる。早期修了制度や長期履修制度などがある。応募要綱等、公式情報はSUGSIのURL (<http://cai.cs.shinshu-u.ac.jp/sugsi/>) に掲載されている。

学習内容は、ハードとソフトの実習を含む必修16単位、選択14単位、修士論文である。授業内容は、CAIが主体で、テキストを読んで問題に解答するもの、テキストを読んでレポートを出すものがある。科目ごとにサポート掲示板が用意されており、質問すると担当教官から回答してもらえる。勉強方法は、ノートPCとPDAを持ち、5分、10分も有効に活用し、いつでもどこでも勉強した。修士論文公聴会では、内容説明後、質疑応答がある。

信州大学博士後期課程に入学するには、まず入試願書提出前に指導を希望する教官の許諾を取る必要がある。入学試験は口頭試験方式でおこなわれ、願書とともに提出する3年間の研究計画をプレゼンし、その計画が博士論文を執筆するために妥当なものであるのかが厳しく審査される。

質疑応答も活発に行われた。CAIが進むと先生が要らなくなるのではという質問に対し、CAIや本を読んだだけで全て習得できるわけではなく質問が出るので、それに回答し指導する優秀な先生が多く必要になると回答された。また、IT大学院ではリアルなキャンパスの雰囲気や気質が伝承されないのではないかという意見も出された。

2. 2005年度IT21合宿例会企画について 吉川博晴氏

合宿WGで検討中の実施方針が報告された。2005年度合宿例会はオープンカンファレンスではなく会員主体で実施する。ネットミーティングを一部実施する。開催時期は2006年4月22日頃、開催地区は横浜を候補地とする。次回WG検討会を11月13日に開催するので意見があれば11日までにMLで発信すること、及び合宿実行委員の追加募集があった。

3. 先端複合技術研究会研究発表募集について 吉川博晴氏

修習技術者支援実行委員会では、修習技術者研修会 / 先端複合技術研究会を毎月開催し、修習技術者に発表の場を提供している。12月度の発表者を募集中であり、修習技術者への働きかけの依頼があった。

4. 初参加の方の自己紹介

初参加の中川裕之氏、矢島応史氏の自己紹介が行われた。

以上 (記載者: 嶋田弘僧)